

伯利西爾時報

發行所 伯利西爾時報社
所行費 每月一元六角
廣告費 每日每行一元
電話 六六〇
電報掛號 七〇七
郵政掛號 六六〇
郵政特准掛號 第六〇〇號
郵政特准掛號 第六〇〇號

戰況公報

【八月廿四日午前十一時】
南滿洲線のフンドン、ガビアラ及びカボン・ボート等の陣地に於て昨日激戦があり朝七時より午後四時迄銃火が交された後、南軍は至る處で撃退された。北軍は一體に平穩であつた。

【午後六時】本日は行はれた戦闘としては敵の飛行機がガラチングの飛行場を襲つて数機の爆弾を投下したが何等損害を與へ得なかつた云ふ一事のみであつた。附近に居つた護憲軍の飛行士は直ちに追跡を始めたが敵機は北に向ひ地平線を彼方に影を消した。

【午後十二時】全線頗る平穩無事。

【八月廿五日午前十一時】昨夜中は大なる變化なかつた。

【午後六時】北軍地方に於ては晝間何等變化起らず、他の方面に於ては劇しい戦闘あり何れも護憲軍の優勢に終つた。

【午後十二時】専政軍はモコツカ、カコンデ、エレットリオ等の東部戦線に於て我軍に強襲を加へたるも護憲軍は寡兵にも拘らず之を撃退した。此戦闘に於て我軍はゼットリオ・グアルガスの一弟によつて率いられて來た大尉を捕虜とし壘市に護送した。南軍戦線に於て護憲軍は見事に敵を撃退せる以外他戦線に異状なかつた。

【八月廿六日午前十一時】各方面の戦闘に護憲軍は頗る有利であつた。クローニヤに於て護憲軍は敵の兵器多量並に完全な軍器を奪取した。

麻州の専政軍潰走

多量の武器彈藥遺棄
キテリア河附近に於て専政軍は護憲軍を襲ひ長時間激戦を續け、遂に我軍は敵を壓迫追撃して潰走せしめた。敵は退却に際し馬、荷物自動車、重機銃、輕機銃多量の武器彈藥等を戦場に遺棄して潰走した。此戦闘でノロエスタの義勇軍第四小隊が頗る勇敢に躍進した。

ミナス護憲軍の將

サンタ・クルス將軍
リオリの報道によればミナス州に於けるアルツール・ベルナルデス氏が、聖州援助の爲組織された護憲軍の指揮にはサンタ・クルス將軍が選ばれた。

大統領不信任

自由の爲、ブラジルの爲、市民、陸海軍、憲兵及び消防隊は、無能なる政府の落度、爲めにブラジルを血に染めつゝある現在の内亂を終結せしむる目的を以て臨時政府首長の權をプロトヂエネス、ギマランエス提督に移授した。今後は同提督並に其の委任者に對してのみ市民及び軍人は命令に服す。

祖國を見よ

八月廿四日排日事件演説に鑑み、日本帝國臣民の生命保護を目的として海軍陸戦隊の一部が上陸し、正規巡警隊の数が増された。

軍隊派遣拒絶

首都の民衆騷擾す
内國電信が昨二十六日夜ベロ・オリゾンテのラジオを奪取した。

日支事變の種々相

馬占山
○七月九日 滿洲國軍李金屯の一行を幸じて通じた馬占山は、突如庫倫西方バゲンに現れ、我軍を以て我守備隊を襲撃した。我軍は馬を以て力戦奮闘、九日拂曉まで十數時間に亘る大激戦となつたが、我軍遂に敵軍を撃退、馬占山はモリラン方面へ潰走した。

○十一日 馬占山掃蕩の爲、モリラン方面へ東進した田中支隊は、モリラン東方に堅固なる陣地を占領せる馬軍の第一線(五百名餘)を攻撃し、殆んど全滅せしめた。我軍の死傷者五十名、奉天教育廳では、日本語教育の必要なるを認め、九月の新學期より中等學校生徒に日本語を講ずる由發表。

○十五日 昨日午後三時哈爾濱發の歐亞國際列車は興安嶺に差しかつた際、數名の馬賊の襲撃を受け、貨物と乗客を奪取され、旅客中多數の死傷者を出した。○十六日 支那國民政府は曩に罷免した。

大連海關長 福本氏の
後任として、支那總稅務廳總務司長岸本啓吉氏を任命すること決定し、最近駐日公使を通じて日本政府の同意を求めた。たゞ内田外相は、矢野代理公使をして、國民政府の不誠意を指摘せしめ、日本政府は斷じて之を承認するを得ない旨通達した。○十七日 慶城駐屯部隊に糧食輸送の任に當つた重部隊は午前三時任務を果して歸還の途に馬占山軍騎兵三百と遭遇、戦五時間に亘り遂に多大の損害を與へて敵を撃退した。我軍は戦死者三名、負傷者十名。

○十八日 滿鐵本線分水嶺長外一名の日本人が匪賊に拉致せられた。同地警察は駐屯部隊の援助を求めて二邦人の行方嚴密に調査し、張學良は東北軍四ヶ路を動員し、通州に集結を命じた。リットン卿病む

○十九日 日本政府當局と會見を終つたリットン卿一行は本日秩父丸にて青島着、リットン卿は病氣のため濟南より張學良の飛行機にて北平に到り、直ちにロックフェラー病院に入院した。調査委員達は北平に最終の報告書の起草に忙殺されてゐる。

○二十日 熱河に於ける形勢逼迫せる爲め、張學良は各省境警備の爲河北將校會議を召集するに決し、打電した。

○二十二日 唐玉林は目下セウトクに三ヶ旅を擁し居るも、貨物自動車八臺に貴重品滿載し、警衛兵二十名をつれて天津の伊太利租界に送つた。唐は張學良手中に陥り滿洲國に對して誠意なきものと認められてゐる。

二重課稅
○二十三日 南京政府は、大連海關稅收問題解決不可能なるを以て、その報復手段として滿洲國貨物に二重課稅をなすとの報が傳はつたが、我外務省には何等公報なく、南京政府の例の手と見られてゐる。が若し南京政府がそれを敢てすれば、一八七三年の天津條約第二十五條の原地課稅主義を無視するもので、外務省では強硬態度に出る方針だ。

○二十四日 南京政府は滿洲國に對する對務本日より實施。對南滿洲國の任命せる奉天郵政監督局長ボリツテは政府の命により引上と決定。

○二十五日 藤原郵務司長は今朝十時總理局長ホリツテと會見一切の引繼を了へ、明二十六日より滿洲國の手で郵便替務を開始することとなつた。尙滿洲國新切手、葉書も同日より使用し、對外的にも使用する方針だ。

○二十六日 今朝八時匪賊の大部隊が遼寧に來襲した。○支隊本部は直ちに戰車隊を出動せしめてその掃蕩につとめてゐる。賊勢旺盛なるため在留邦人、銃を執つて立ち、○支隊と協力して匪賊を掃蕩してゐる。

駒井總務司長
○二十七日 駒井總務司長は滿洲國承認、四頭政治の統一の兩問題につき日本政府と打合せの爲、明二十八日東京發、飛行機にて來朝することに決定した。駒井氏は語る

「今回の渡日は約二週間の豫定である、その目的は國家の承認並に四頭政治統一問題につき打合せの爲である、日本で滿洲國を承認することは極東の政局を安定せしめる爲最も必要だ」と

○二十七日 馬占山は二十五日正午スイホク東北地點で吉岡騎兵部隊及三宅騎兵○○隊と激戦した後、遂に東方山地に潰走、吉岡部隊追撃中、此の戦闘に於て敵の死傷者四十二、捕虜十、我軍の損害輕微。

○二十八日 南京政府は壽府代表に對し、日本の在滿特權全權大使の派遣につき聯盟の注意を喚起せしめ、日本が滿蒙を併呑せんとするものと見做す外なきことを指摘するやう訓令を發したと發表した。

○二十八日 馬賊に拉致された石本滿鐵職員の救出につき、馬賊の頭目羅録との交渉成立し、石本は既に北平に到着、今日中には奉天に歸り得ることとなつた。

張學良の身邊危し
○二十八日 本日陸軍我省着電の情報に依れば、二十六日張學良私邸で河北軍事會議が開かれた。學良の威勢地に際して今日各將僚は學良の前途を見限り北中にある間に、暗黙裡に或種諒解を遂げたもの、如く、同會議終了し各任地に歸着後の行動は興味あるものと觀られてゐる。

○二十九日 駒井滿洲國總務司長は本日午後四時三十分無事東京郊外羽田に到着、朝野人士の出迎を受けて帝國ホテルに投宿した。來訪の記者團に向つて「渡日の目的は滿洲國承認だ、何ぞ進退問題で……自分は滿洲國の官吏であつて、日本國の官吏ではない」と語つた。

錦州危し
○二十九日 奉天省一帯の義勇軍並に匪賊は、張學良の命により、錦州攻撃準備中にて、目下の兵力は錦州東地約三千、義州西方二千、ホウソウ一千、ホウソウ附近二千、石山塘北方三千、白旗堡打虎山、後方鐵道線附近に五、六千、錦州は全く包圍せられてしまつた。

○八月二日 滿洲國は聯盟總會に新に外交顧問として就任した米人ブロンソンを特派することに決した。

同日廣東地方は連日の豪雨の爲大洪水となり溺死者數百名被害甚大。

○八月二日 張學良は昨夜天津四十三民衆團體代表の東北失地回復及び、長期抗日の請願に對し「對滿方針については余の

大連海關長 福本氏の

後任として、支那總稅務廳總務司長岸本啓吉氏を任命すること決定し、最近駐日公使を通じて日本政府の同意を求めた。たゞ内田外相は、矢野代理公使をして、國民政府の不誠意を指摘せしめ、日本政府は斷じて之を承認するを得ない旨通達した。○十七日 慶城駐屯部隊に糧食輸送の任に當つた重部隊は午前三時任務を果して歸還の途に馬占山軍騎兵三百と遭遇、戦五時間に亘り遂に多大の損害を與へて敵を撃退した。我軍は戦死者三名、負傷者十名。

二重課稅

○二十三日 南京政府は、大連海關稅收問題解決不可能なるを以て、その報復手段として滿洲國貨物に二重課稅をなすとの報が傳はつたが、我外務省には何等公報なく、南京政府の例の手と見られてゐる。が若し南京政府がそれを敢てすれば、一八七三年の天津條約第二十五條の原地課稅主義を無視するもので、外務省では強硬態度に出る方針だ。

駒井總務司長

○二十七日 駒井總務司長は滿洲國承認、四頭政治の統一の兩問題につき日本政府と打合せの爲、明二十八日東京發、飛行機にて來朝することに決定した。駒井氏は語る

「今回の渡日は約二週間の豫定である、その目的は國家の承認並に四頭政治統一問題につき打合せの爲である、日本で滿洲國を承認することは極東の政局を安定せしめる爲最も必要だ」と

錦州危し

○二十九日 奉天省一帯の義勇軍並に匪賊は、張學良の命により、錦州攻撃準備中にて、目下の兵力は錦州東地約三千、義州西方二千、ホウソウ一千、ホウソウ附近二千、石山塘北方三千、白旗堡打虎山、後方鐵道線附近に五、六千、錦州は全く包圍せられてしまつた。

張學良の身邊危し

○二十八日 本日陸軍我省着電の情報に依れば、二十六日張學良私邸で河北軍事會議が開かれた。學良の威勢地に際して今日各將僚は學良の前途を見限り北中にある間に、暗黙裡に或種諒解を遂げたもの、如く、同會議終了し各任地に歸着後の行動は興味あるものと觀られてゐる。

